# 今月の人ものがたり

## 学生時代にやってきたことは算数で、実際の現場では数学!!

▲ザ・実験室!!

喜田さんは「無手無冠」の杜氏。会社に入ってちょうど10年になります。ご出身は愛媛県今治市。地元の高校を卒業して高知工科大学へ。これが高知県との縁の始まりとなりました。工科大学では、2年生までは化学・生物・物理全てを学び、3年生からは生物を選択し、微生物の研究に勤しみました。中でも主に研究していたのは、アルコール発酵の分野。農業廃棄物や残さなど、活用されていないものを使って、アルコール発酵を制御する実験と研究を重ねてきました。

どのような農業廃棄物を使っていたかというと、高知県らしいもの。例えば生姜の搾りかすを乾燥させた粉末や、枇杷の種。生姜には抗菌作用があることが知られていますが、東洋医学などでは枇杷の種にも似たような作用があることが言われています。生姜の粉末を使った実験で「もちろん分量はいろいろ変えながらですが、アルコール発酵が一週間止まりました」と喜田さん。

実験と研究の大学生活でしたが、さらに研究を深めることができる大学院へ行くことに。そして大学院最後となる2年生の5月のことでした。縁あって、無手無冠へ見学に行くことに。その後、先代の社長から「三日間ほどアルバイトにおいで!」と誘ってもらいました。「アルバイトに行ったのは6月か7月だったと思います」さらに「8月の河原パーティーにおいで!」と誘われて河原パーティーに出かけていったそうです。そして、翌春から採用となりました。とんとん拍子に見える展開ですが、ご本人曰く「採用が決まったのが9月なので、通常の就職活動としてはかなり遅いほうです。実は、就職できるかどうか不安でした」さらに「自分が学んだ業界に就職するのってかなり難しくて、私がやってきたアルコール発酵の分野もかなりの狭き門なので、自分はラッキーだったと思います」ということ。

現在、杜氏となって3年目。大学と大学院で実験と研究を重ねてきたとはいえ「いわば、学生時代にやってきたことは算数で、実際の現場では数学。まだまだです」と喜田さん。お話を聞けば聞くほど、微生物との付き合いは極めてデリケートなものなのだということがわかりますし、その世界の面白さにワクワクします!!

喜田（きだ） 和享（かずあき）さん



# すくすく

勝賀野

**河野（こうの） 菜月（なつき） ちゃん**

令和３年３月生まれ

いっぱい食べて
元気に大きくなあれ　（靖志・英里子より）

四万十町HP▶分類で探す▶その他▶
『四万十町通信すくすくコーナー募集!!』
［お問い合わせ先］
企画課広報情報係　☎22-3124

連載 No.6

＼ 令和６年度開館予定 ／

FAQ 教えて！文化的施設のこと

## サービス計画ができたけど、どんなことをするの？

### ◆ 令和３年度末に「文化的施設サービス計画」が決定！

「サービス計画」とは「基本構想」および「基本計画」をもとに、施設で提供するサービスの基本的な考え方と具体的な実行計画を示すものです。サービス計画は２年をかけて施設の設計と一体的に検討を進めてきました。令和４～８年度までの５か年計画で、本年からいよいよ計画期間に入り、令和６年度の開館に先駆け、提供可能なサービスから随時提供を開始していく予定です。

「サービス計画」は各閲覧所（本庁・各地域振興局・出張所）や図書館、町ホームページにて公開していますので是非ご覧ください。

### ◆ ４つの機能（図書館・美術館・展示・コミュニティ）を柱にサービスを提供

**〈 図書館機能 〉**
蔵書の充実や、きめ細かなレファレンスサービス、四万十町の実態に合わせたコーナーづくり、地域資料の収集・保存に取り組みます。また、地域資料のデジタル化も検討を進めます。

**〈 美術館機能 〉**
収蔵作品展、アンデパンダン展など既存の取り組みに加え、新たにアートプロジェクトなどにも取り組み、創造の機会をつくっていきます。また、作品の適切な保管や積極的な活用に取り組みます。

**〈 展示機能 〉**
本町の歴史を感じさせる資料の展示を行います。

**〈コミュニティ機能〉**
気軽に立ち寄り、集い、話し、学び、活躍し、楽しめる施設を目指します。

### ◆ 広域なまち全体にひらかれ、各地域を結ぶサービス

本町は総面積642.28㎢と町域が広く、淡路島や東京23区よりも広い面積を有しています。そのため、施設に日常的に来館できる方は限られてくることが想定されることから、「地理的条件の格差是正」が施設の課題の１つと言えます。そこでアクションプラン（行動計画）に「広域なまち全体にひらかれ、各地域を結ぶサービス」を掲げています。例えば、ＩＴ（情報化技術）などによって、自宅で蔵書を検索し、予約したり、美術品を鑑賞したりといった、文化的施設に直接訪れなくても、施設が持つ情報にアクセスできるようにするサービスの提供を予定しています。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症のように、「人が集まる・接触する」ことがリスクになる事例もあることから、施設の利用そのものができなくなっても文化活動を止めないということを想定しておく必要も出てきました。

このため、文化的施設内で行われるサービスの充実とともに、施設から遠い十和・大正地域のみならず、窪川地域内であっても、施設から遠方にある地域の方々にも文化体験をしていただけるように検討を進めているところです。「移動図書館車の運行」や「図書のサテライト貸出」、「まちじゅう美術館」、「十和分館設置の検討」もその取り組みの１つです。

次回テーマ：令和４年度はどんなことに取り組むの？

「四万十町文化的施設」ビジョン
まちの文化が流れ、ひとにひらかれ、ひとが集まる 四万十駄場

お問い合わせ先
企画課 文化的施設整備推進室
☎22-3124